

授業科目名 <英訳>	心理データ解析演習 Seminar on Analysis of Psychological Data				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 特定准教授 高橋 雄介					
配当 学年	院	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	課題演習	使用 言語	日本語
共用科目											
[授業の概要・目的]											
本演習では、人の認知構造やプロセスを明らかにするための心理学的方法として、データ解析法とシミュレーションの技法を、最新の文献、ソフトウェア(SPSS, R, JMPなど)に基づいて検討します。											
[到達目標]											
受講者が、授業で取り上げた手法を理解し、収集したデータを解析して、モデル化するスキルと知識を身につけ、レベルの高い学術論文を執筆する能力を育成する。											
[授業計画と内容]											
第1週に、オリエンテーションをおこなう。2週目以降は、参加者が1名ずつ自分が関心をもつデータ解析法を発表し、実習を行い、全員で討論する。 受講者は、1巡目の発表では、教科書に基づいて紹介を行い、2巡目の発表では、どれかの手法を取り上げて、(a)手法の紹介、(b)利用法の説明・デモ、(c)できれば、自分たちのデータを利用した結果を紹介する。 下記はテーマ例である (1) 実験データの解析：検定力と信頼区間、効果量、対比分析、分散分析、共分散分析、多変量分散分析、ノンパラメトリック検定、ロジスティック回帰分析、時系列分析など (2) 認知構造の解明：因子分析、クラスタ分析、多次元尺度解析、主成分分析など (3) 認知プロセスの検討：回帰分析、判別分析、共分散構造分析など (4) 質問紙データの分析：共分散構造分析、多母集団同時分析、数量化理論、コンジョイント分析、マルチレベル分析など (5) テキスト（自由記述や連想）データの分析：テキストマイニング、対応分析 (6) メタ分析 (7) ベイズ推測 各自の関心に応じて他の解析法、ソフトウェアやマクロ作成法、シミュレーション技法、実験プログラムを取り上げてもよい。											
[履修要件]											
心理学で用いる記述統計、推測統計の基礎的知識を持ち、データを分析した経験あるいは分析するデータを持っていることが望ましい。なお、受講者の発表テーマと授業のレベルは、各自の関心と学習の進度に応じるかたちで設定する。											
----- 心理データ解析演習(2)へ続く -----											

## 心理データ解析演習(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への出席，担当回の発表、課題の提出を要件とする。成績評価は、これらを総合的に評価する。評価基準は、到達目標について、教育学研究科の評価基準に従って評価する

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

下記の授業ホームページを参照のこと。

(関連URL)

<http://kyoumu.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/personal/Kusumi/datasem.htm> (授業のHP(PPTとデモデータを公開))

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/personal/Kusumi/kaiseki.htm>(過去に授業で発表されたデータ解析法の一覧)

### [授業外学習(予習・復習)等]

予習すべきこと

発表者は、受講者にパワーポイント発表資料や模擬データを事前に配布する。受講者は、教科書や発表資料に目を通し、疑問点を明らかにする。

復習すべきこと

授業中に紹介された解析手法を使って、模擬データを自分でもう一度分析してみて、スキルが習得できたかを確認する。さらに、自分のデータに適用できるか検討する。

(その他(オフィスアワー等))

履修者は20名に制限します。

サテライト教室のコンピュータまたは、各自が持参するノートパソコンを利用します。サテライト教室のコンピュータを利用するため、メディアセンタのアカウントを取得しておいてください。デザイン学大学院連携プログラムの予科生・本科生は授業科目名「心理デザインデータ解析演習」で履修登録をしてください。

発表に際しては、事前にPowerPointとデモデータをHP上に公開してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。